

平成 26 年度国頭村へき地教育研究大会  
(国頭村へき地 5 校 = 北国小・奥小・佐手小・安田小・安波小 )

児童 3 名 (2 年 1 名、4 年 2 名)、職員 7 名の学校である。これまで、地域の区長さんや保護者の協力で山村交流事業等を利用して児童の数の維持にがんばってきたが、今年度転出等もあり、児童数は 3 名の状況である。いわゆる限界過疎地域であると言っても過言ではない。国頭村のへき地 5 校の中でも現在一番厳しい状況である。



沖縄のこんな田舎ではあるが、日本国憲法における「学習権の保証」は達成されないといけない。教育の機会や質において都会に暮らす子ども達と平等で均質でなければならない。教育に経済格差や地域格差は絶対にあってはならないコト・モノである。

本日も、へき地 5 校の先生方が一同に会しへき地教育について語る、単に授業の指導技術の共有にとどまらない、へき地校ならではのそれぞれの学校に、それぞれの教室に、そしてそれぞれの教師に困り感や不安がある。みんなで共有し語ることによって、へき地でがんばる先生方のちょっとした癒しにでもなってくれば幸いである。

【公開授業①】 2年1組 授業者 A先生  
単元：場面の様子を思い浮かべながら読む  
教材名『わにのおじいさんのたからもの』 かわさき ひろし (教育出版)

静かに淡々と始まる。前時の学習を振り返り4段落の読みに入る。自分のペースでじっくり読む。



写真①



写真②



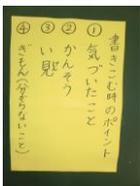
写真③

写真①、一人であれ本時の目標や学習計画(進行表)にしたがって授業は進められる。まずは4段落の音読である。じっくり読んでいる。決してすらすらとではないが、自分の力に応じた速さでじっくり読む。

写真②、書き込みである、ポイントを確認しテキストに向かう。



写真④



写真③、じつはこの後、子どもを睡魔が襲う。本日は他校からの参観者(写真④)も多い、一人子の子どもが寝てしまったら授業が成立しない…

「どうしよう」・・・授業者の悲痛な心の声が聞こえる。日常なら散歩でもしたいところですね!お疲れさん!

本時に至るまでの教科書の書き込みである。ぜひ、ゆいのHPで拡大してみてほしい。

【公開授業②】 4年1組 授業者 K先生

単元：ものの温度と体積

本時の目標：① 閉じ込められた空気を温めると、中の空気の体積が増えることがわかる。  
② 自分の予想や結果を表現し、交流し合うことができる。

【デザインシート授業者より】

年度当初より個別に学習することを好む傾向にありました。自分の作業や記録を隠しながら活動していることがかなりありました。互いの気づきの交流はどちらにもプラスになることを様々な教科で体験できるようにしてきました。まだまだ成長し合える二人だと思います。協同的活動や交流の場面を多く取り入れ、「自分が高めてもらった」という喜びを感じながら学習を進めていきたいと思います。

自分の課題としては、「児童の学びをどう捉え育てているか」ということが整理できていないことです。今回の授業を観ていただき、ご指導とご助言を頂けると幸いです。

上の文どう思います。どんな教師の人柄が想像できます。「謙虚、素直、温厚、子どもへの温かさ、教育者としての使命の自覚」等ですか。私は、久しぶりに教師と子どもの「息づかい」を感じる授業を観て感心していたのですが、デザインシートのこの一文を見て納得しました。…この授業者だからあの授業ができるんだ。本日参観された先生方にぜひ感じてほしい授業でした。「見えないところに難しさがあり、見えないことに美しさもある。」・・・K先生、今あなたが感じている感性、育てたい子ども像に自信をもって挑戦して下さい。

子どもと教師の言葉の質やタイミング、目線のやり取りからお互いの関係がほんとうによく見えてきます。

私の言葉は助言にも至らないと思います。『あなたは、あなたに合った、あなたらしい授業』を追い続けてください。陰ながら応援させていただきます。

【3枚の写真】 さて、この3枚の写真の共通点は何でしょう？



教師のポジショニングを観ていただきたい。近すぎず、遠すぎず。教師の関わりを最小限に、子ども達の思いや言葉を大切にし可能な限り「見守る」に徹する教師の位置です。・・・この行為に子どもは確実に支えられて（安心）います。

二人しかいないのです、どうにも困ってしまうこともあるのです、どうしても「できない」こともあるのです…でも、ぼくたちの後ろには、僕たちを絶対見捨てない教師がいるのです。

【協同的活動】 「ふたりの手で温めてみよう。」



1回目の共有の後、もう一度やってみた。今度は二人で協同的活動になる。何ともほのほのとした空気が流れる。参観者も癒された落ち着いた顔で見守る。互いに気遣い譲り合う。奪い合い、言い争うことは決してない。まさに教師と3人の「あうん」の呼吸である。モノは手から手に無言で移動し、一人が発言するときは2者は息をのんで聴いている。互いの視線で納得し合い、次の行動に移る。

教室に共存する者たちの、共生するための息遣いを感じる。「温かさ、支え合う、大丈夫、安心」いずれも目には見えないモノである。K先生ありがとうございました。子ども達の探求の眼は「Watch」でした。さらに参観されている先生方の眼もLookでした。ほんとに素敵な授業でした感謝します。



村内へき地校のすべての教師が集い、授業や課題について協議する。4つのテーマでグループ協議されたがどのグループも素直に真剣に、そして何より「楽しく語っている。」素敵な教師集団である。